

2009年6月13日 事前講義

インドネシアの政治

岡本正明（京都大学東南アジア研究所）

インドネシアの政治について、32年間続いたスハルト権威主義体制の時代(67年～98年)とそれ以後の民主的・分権的政治体制の時代(98年～現在)を中心として説明を行った。それから、今回のフィールド・スタディーの対象地であるバンテン州の地方政治について説明を行った。まず、スハルト体制がスハルト大統領に権限を集中させ、国会や地方自治体の影響力を弱めることで政治的安定を実現し、曲がりなりにも比較的高い経済成長を実現したことを説明した。しかし、97年のアジア経済危機に際しては、スハルトに権限が集中しすぎていたことが裏目に出てアジアでも最悪の経済危機となり、ひいては社会政治危機につながり、スハルト体制崩壊につながった。その後、きわめて急速に民主化、そして分権化が進んだために、中央でも地方でも混乱が続いたものの、2004年ぐらいから政治的安定が実現し始めており、経済的にも成長が続いていることを説明した。

続いて、バンテン州における地方政治を紹介した。有力な二つの政治アクターとして、イスラーム・リーダーであるキヤイ、蛮勇をふるいがちなローカル・ストロングマンであるジャワラをとりあげた。スハルト体制期を通じて社会正義の唱道者であるべきキヤイの多くがスハルト体制の支持者になることで社会政治的影響力を弱めたこと、同じくスハルト体制の支持者となったジャワラは政界・財界に進出を遂げて政治経済的影響力を高めることに成功した点を紹介した。そして、スハルト体制が崩壊すると、すでに政治経済的に影響力を持っていたジャワラがバンテン州という新州設立で活躍し、新州誕生後も政治経済的優位を持ち続けることに成功したことを説明した。

最後に、こうしたバンテン州の地方政治と外部者が関わりを持っていく上では、あからさまな批判だけでは無意味どころかマイナス効果となり得ること、まずは徹底的に地方政治の論理を分析して、その上で長期的視点に立って変貌の可能性を探ることが必要であり、同地の有望な若手と協力体制を樹立していくことが必要であると述べた。

（記録：岡本正明）